

1月11日(月)

おかしな格好, 素晴らしいメッセージ

聖書朗読 マルコ 1:1~8

さばいてはいけません。さばかれないからです。

マタイ 7:1

ある日、友人が改まった場に正装ではない格好で出席したあるカップルの話をしてくれました。後にそのカップルの装いは伝統的なインディアン族の正装だったとわかったのですが。

その友人は、彼らが改まった席にはどのような服装で来るべきかを知らないのだと思ひ込み、彼らをすっかり誤解していたと言いました。実は、彼らは非常に教養の高い人たちで、彼らが一緒に働いているとあるインディアン族について講演するために来賓として招かれていたのです。

ラクダの毛で作られた洋服を着、革の紐を腰にまとったワイルドな外見の人(預言者ヨハネ)を最初に見たとき、人はヨハネのことをどう思ったでしょう? ヨハネはコオロギや野生のハチすら食べていたのです! ヨハネはヨルダン川から出て、聞くもの全てに説教を行っていました。ヨハネのメッセージは非常に力強く、ユダヤの片田舎からエルサレムまで、大変多くの人を惹きつけました。ヨハネは悔い改めを説き勧め、そしてヨルダン川で多くの人にバプテスマを授けました! ヨハネは数百年もの昔に語られたイザヤの預言を成就するために現れたのです! ヨハネは、彼の後に来る御方、ヨハネよりさらに偉大な御方、ナザレのイエスのための道を用意していました!

外見で知らない人を判断するときは注意しましょう。彼らは神の素晴らしいしもべかもしれません。

讃美歌 514

祈り 親愛なる主。私たちはどうしても人を外見で判断しがちです。どうか私たちが赦し、そして全ての人の中に、御子の死に値する尊い魂を見ることができるようお助けください。

H・グレン・ボイド

アーカンザス州 サークシー

今日の力

2016年 1月11日~1月17日

翻訳 阿部やよい

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月12日(火)

荷物は軽く

聖書朗読 マルコ 6:7〜13

いっさいの重荷とまとわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。ヘブル 12:1

荷物は軽く。なんと難しいことでしょう！最近、私はヨーロッパへの三週間の家族旅行のために、この面倒な仕事、荷造りに孤軍奮闘しました。いろいろな乗り物を利用して、いくつかの都市をまわる予定でした。ですから、あまりたくさんのカバンを持っていくのは、足手まといになるし、体力を消耗するし、乗り物も制限されてしまい旅費が高くなってしまふのは分かっていました。よく考えた後、最初は必要だと思っていたいくつかの物を持って行くものリストから外しました。

イエス様は十二弟子を送り出すとき、彼らに荷物を軽くするようにいいました。もちろん必要のないバッグもいりません。イエス様は。心から神に身をゆだねるということを弟子たちが身をもって知ることを望まれました。そして弟子たちが自身に与えられたミッションに専念するよう命じられました。

神に身をゆだねようとする心を乱すもの、この地で与えられたミッションを行おうとする私たちを邪魔するもの全ては、私たちの足をひっぱり、奉仕するチャンスを奪い、そして私たちのエネルギーを消耗させます。いつも身軽で、神が私たちにお与えくださるチャンスにいち早く、そして残すところなくお応できるように備えていたいと思いませんか？ですから、一度自分の手荷物を確認してみましょう。そして荷造りをしなおしてみしましょう。そうすれば身軽に旅をすることができます！

讃美歌 84

祈り 親愛なる主。あなた様が私のために用意してくださっている奉仕の道を身軽に旅することができますように！どうか私たちの足を引っ張るもの全て、そして私たちの能力を制限するもの全てを捨てられるようお助けください。イエス様の御名によって。アーメン。

シェル・ボウエン
コロラド州 ロングモント

1月13日(水)

名もなき特別な人

聖書朗読 マルコ 14:1〜9

まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。マルコ 14:9

ベタニアでイエス様が香油を注ぎかけられた話は私の大好きな話です。イエス様は密かに、これから来る死と埋葬に備えておられました。女性の名前は知られていません。しかし愛をこめて、献身的にイエス様の頭に香油を注いだこの女性は現在でも人々の記憶に残っています。彼女の名は明らかになっていません。

今や彼女はただの名もなき女性ではないのかもしれませんが。彼女は何百年後の現在でも人々の心に残っています。彼女は今までの、そしてこれからの人生の中で最も重要な出来事、イエス様の死そしてそれに続く復活に関わりました。彼女はイエス様と繋がっています・・・彼女の名前は記されてはいませんが、「とても深く」繋がっています。彼女は名もなき特別な人としてイエス様と繋がっています。

私が言う言葉、する行い、送る人生がイエス様と繋がるよう私はいつも祈っています。そうすれば、私はイエス様の愛と私たちのために捧げられた命と繋がることができます。人が私を思い出すとき、私の名前を忘れてしまってもかまいません。願わくば、私を通して生きておられたイエス様を思い出してもらえるよう、私はいつも神に祈ります。

讃美歌 391

祈り 親愛なる主。私を通して人々があなた様を知ることができますようお助けください。そして、あなた様とあなた様が行うもの全てと関わり、繋がっていられますように。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

サンディ・ドーリティ
カリフォルニア州 マリブ

1月14日(木)

記 憶

聖書朗読 マルコ 14:22~31

この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、
これを行いなさい。 I コリント 11:25

あなたの心に残っている一番の出来事は何ですか？ 誕生日？ 記念日？ 結婚式？
それとも旅行でしょうか？ 楽しかった日を思い出す人もいれば、悲しかった日を思い出
す人もいるでしょう。

私の父は冗談を言うのが好きでした。その中の一つで、物忘れについてのものがあり
ました。ある男の人が、階段を上ったのはいいのですが、何のため階段を上ってきた
のかを忘れてしまったのです。だから彼は階段を下りたのですが、すると今度はなぜ階
段を下りてきたのかを忘れてしまったのです。彼がなぜ階段を上ったのか、そしてなぜ
階段を下りたのかも思い出せなかったのです！ 実はこれは私にも経験があります！

数年前、私の行っていた教会では、主の食卓の最中は照明を暗くしていました。暗
くなると、礼拝堂はとても静かになりました。このときの記憶は今でも忘れられません。
聖餐式は思い出す時です。主の死を思い出し、主の再臨を楽しみに待つ時です。敬虔な
心で、主が私たちにしてくださったこと、主のうちにあって持てる希望について考える
ための特別な時です。

すべてに勝る尊いもてなし

私たちへの驚くべき愛

このもてなしを楽しむとき、キリストは優しくささやく

「私を覚えてこれを行いなさい」

————— ティリット・テディ

讃美歌 142

祈 り 親愛なるお父様。私たちのために愛ある犠牲を決して忘れることがないよう
お助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ケーシャ・ウィンザー

カリフォルニア州 サンディエゴ

1月15日(金)

恵 み と 恩 寵

聖書朗読 ルカ 4:14~19

神の恵みによって、私は今の私になりました。 I コリント 15:10

ロンドン郊外にあるハンプトンコート宮殿は、主に歴史上有名な英国王ヘンリー8世
の邸宅です。この宮殿内にある質素な廊下横の壁に、名も知らぬ人々が記された小さな
ネームプレートが掛けられているのを見ることができます。ここに掛けられている人々
は、王室からの「恵みと恩寵」とで宮殿に無料で暮らしていた人たちでした。

彼らは、王室の中で使用人として働いた者、退役軍人だった者、または、ただ王や
王女に何かしら役に立った人たちです。仕事の内容を問わず、彼らはお金では買えない
もの、宮殿内での住まいという褒賞を与えられました。

神に仕えるのも同じです。私たちの父の家にはたくさんの住まいがあります(ヨハ
ネ 14:2)。それらは決してお金で買えるものではなく、神からの恵みと恩寵というた
だその理由で私たちはそこに住むことができます。神が私たちのことを名前覚えてい
て、そして私たちの住まいまでも用意していただいているなんて、なんと素晴らしいこ
とでしょう。その住まいはお金では買うことも、何かの対価として手に入れることもで
きません。私たちは、今もこの先も永遠に、私たちの人生は神のこの恵みで満たされて
いることを忘れずに、信仰の道を歩んでいきましょう。私たちは名も知らぬ人々かもし
れません。しかし、神は私たちのことを知っておられます。そして私たちは神の恵みと
恩寵の恩恵にあずかっているのです。

讃美歌 第二編 167

祈 り ご在天のお父様。私たちに恵みと恩寵を与えてくださり感謝いたします。イ
エス様によって永遠に住むことができる住まいの場所を知ることができまし
た。これに心より感謝いたします。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジョシュ・ボイド

インディアナ州 ラファイエット

1月16日(土)

たくさんの雀よりも

聖書朗読 ルカ 12:4〜7

五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れてはいません。それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。

ルカ 12:6〜7

私は鳥たちを見るのが好きで、オフィスの窓の外にある鳥の餌台に集まってくる鳥たちの記録をつけています。鳥たちの羽は色鮮やかで美しく、その美しい羽を見るたびに神の想像力豊かな御手を思い浮かべます。

この鳥のための餌を狙ってやってくるリスがいるのですが、このリスがとてもしつこいのです。何度追い払ってもまた餌台に戻ってきてしまいます。ある日窓の外が騒がしかったので、またリス来ているのだろうと思いました。しかし、私が見たのは、私が色鮮やかな友たちのために置いた餌を、大群で群がってガツガツ食べている小さな茶色の鳥たちでした。最初は、その茶色の鳥たちをシッシッと追い払おうと思ったのですが、その時、私はイエス様が神はこの小さな雀の一羽でも忘れてはいないと弟子たちに行ったのを思い出しました。この茶色の鳥たちも神がお創りになられ、カラフルな毛を持つ鳥たちと同じくらい美しいものなのです。

イエス様は、弟子たちはたくさんの雀たちよりも価値があるもので、神は弟子たちの頭の毛さえも数えておられると弟子たちに語り、教えを続けられました。神はご自身がお創りになられたものを全て覚えておられ、そして気に掛けられておられます。

私たちは、市場で小額で売られている雀のように、自分には価値がなく、そして必要のない人間だと思ってしまうことがあると思います。そんなとき、神が雀を忘れてはいないように、私たちもまた忘れられていないことを思い出しましょう。

讃美歌 第二編 144

祈り 親愛なる神。宇宙の創造主、この美しい世をありがとうございます。そして私たち一人ひとりを決して忘れないでいてくださり感謝いたします。あなた様が望む創造物でいられるようお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジョイス・ハーディン
テキサス州 オースティン

1月17日(日)

家の中の一番の席

讃美歌 ルカ 14:7〜14

なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。
ルカ 14:11

ある日、私は家族とともにアイスアリーナの目もくらむような最上階の階段を上っていました。ようやく自分の席までたどり着いたとき、ある女性が私のところまで上がってきて「このアリーナの中での一番の席に座ってみませんか？」と私に尋ねました。私は信じられなくて、「冗談でしょ？」と小さくつぶやいてしまいました。しかし、彼女は私たちを向こう正面にある豪華なフルサイズの革のリクライニングソファシートに案内しました。さらに驚いたことに、試合の第三ピリオドが始まったとき、カメラが私たちの方に向いたと思うと、アリーナ中から見渡せる大きなスクリーンに私たちの姿が映し出されました。私の家族にとって最高に名誉な出来事でした！

私のこの出来事とクリスチャンライフは驚くほど似ています。イエス様は私たちに上座を選ぼうとしないで、謙虚な気持ちで末座に座り、見返りを期待することなく他人に仕えるよう強く勧めておられます。真の謙遜とは、プライドを投げ捨てて、救い主を本当に必要としているこの世に対して、クリスチャンとしての正しい姿を見せることで、神に仕えるということです。神様、あなた様のこの地で、謙虚な気持ちを持ってお仕えできるよう私たちをお助けください。そして、謙虚な気持ちでいることで、私たちは一つになることができます。

自らを低くする者だけが
心を一つにできる

——R・C・ベル

讃美歌 537

祈り 親愛なる主。心から謙虚な気持ちであなた様にお仕えすることができますよう私たちをお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ダニー・ダンカン
オハイオ州 トレド